

WSN利用促進協議会活動 について

2015年5月27日



YRP研究開発推進協会



WSN利用促進協議会

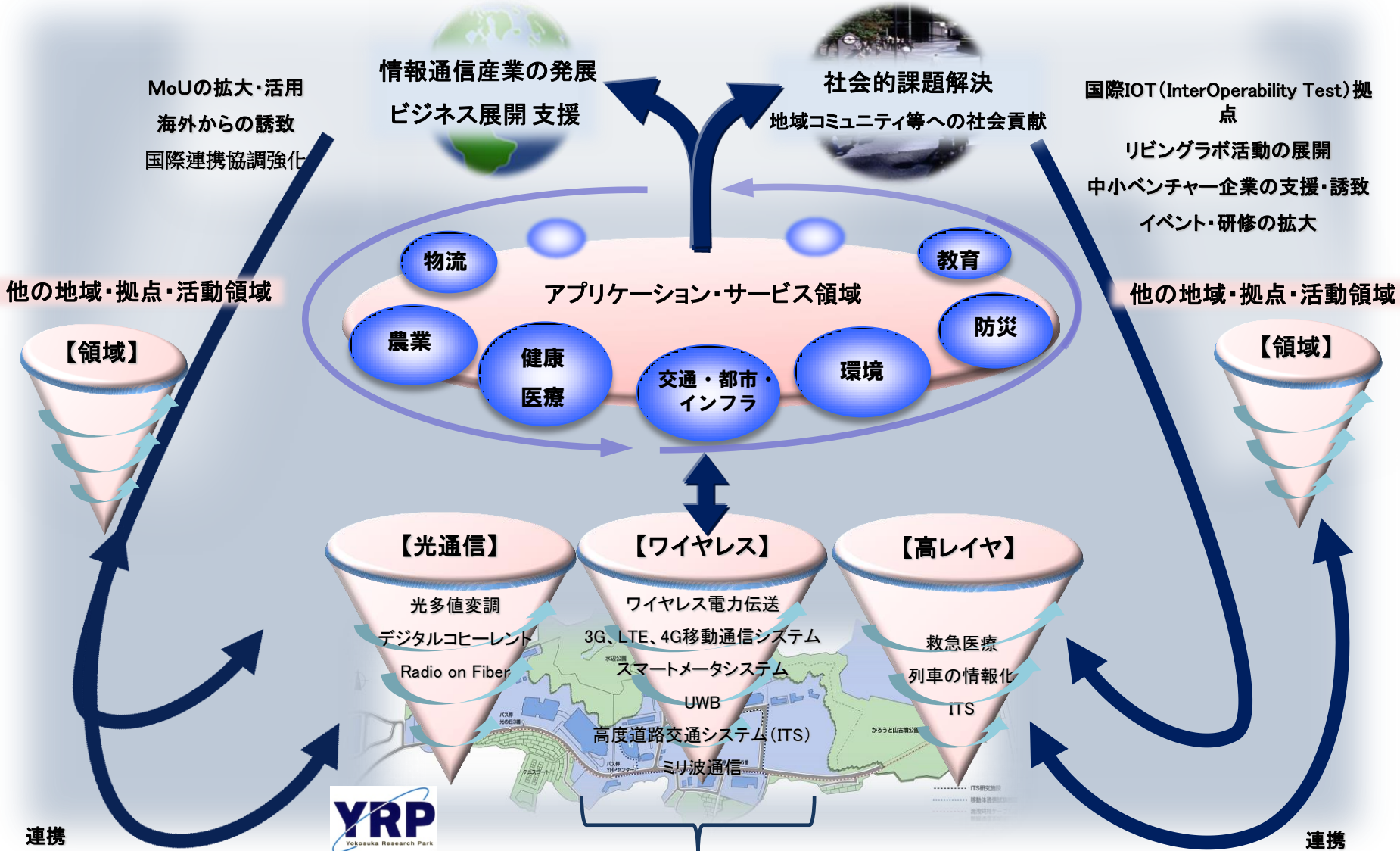
YRP第4期5ヶ年ビジョン(案)

2012年5月

YRP研究開発推進協会

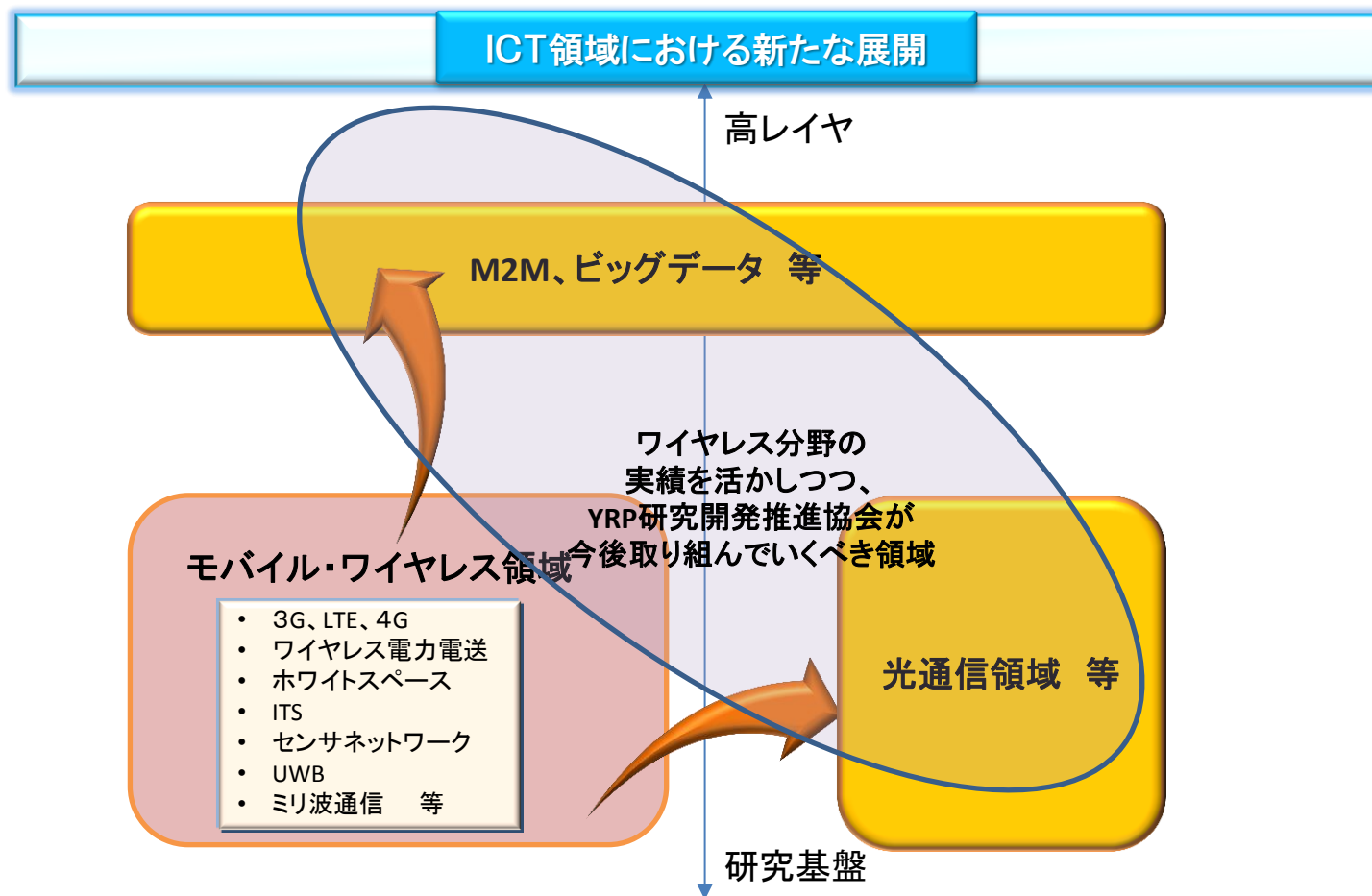
YRPが目指す方向性

- シーズ志向からニーズ志向へとパラダイム転換を図り、ビジネス展開・社会的課題解決を視野に入れたグローバルなオープンイノベーション創出の場としてのYRPを目指す。



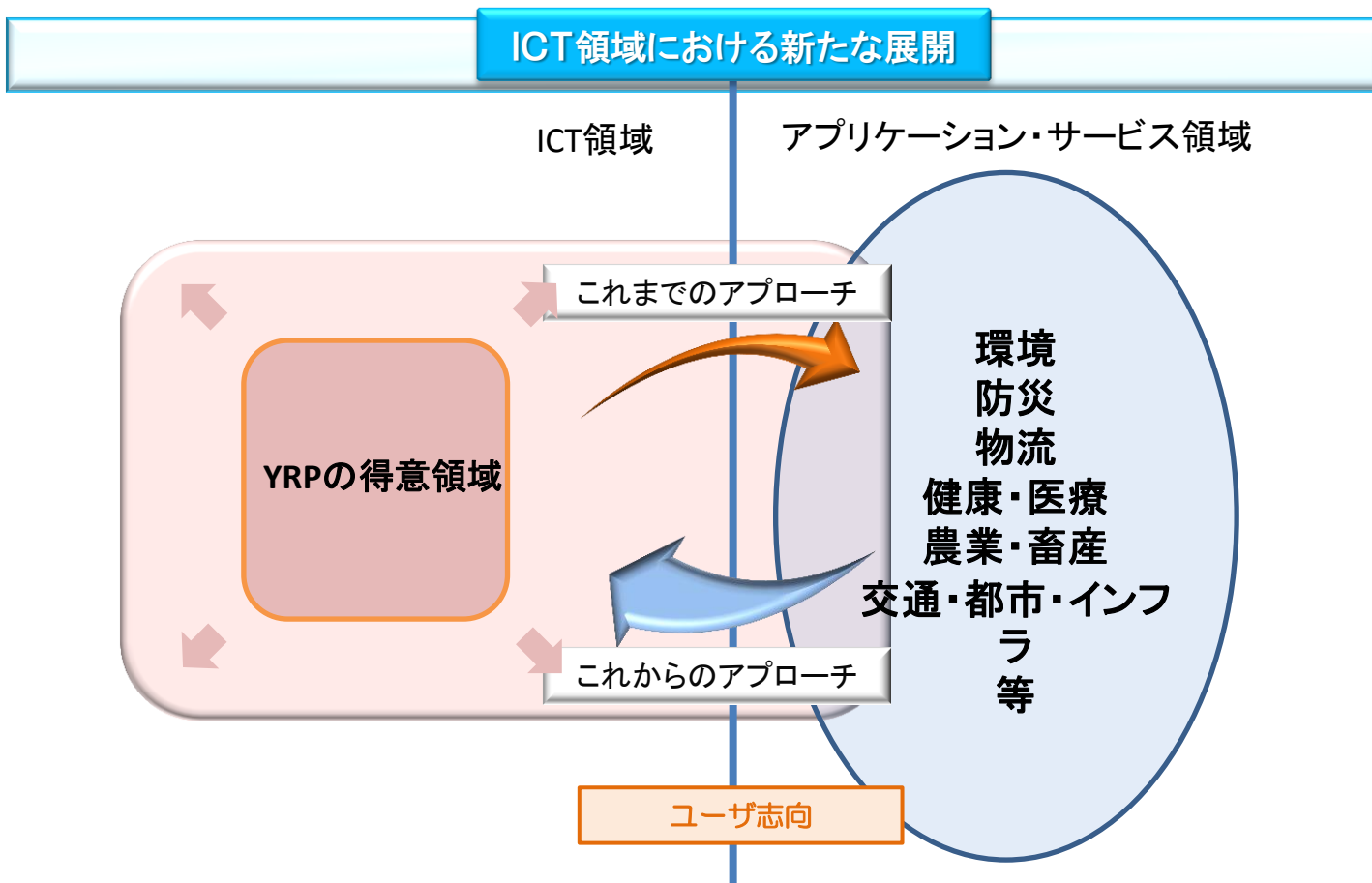
YRP第3期5ヶ年ビジョンにおける主な取組領域

- 近年のモバイル・ワイヤレス分野を取り巻く環境の変化に対応し、ワイヤレス領域以外に、これまでの取組を十分に踏まえた上で、**新たな領域への取組**を一段と強化していく必要がある。



環境変化への対応の方向性(研究開発のアプローチ)

- 近年のモバイル・ワイヤレス分野を取り巻く環境の変化や様々な社会的課題を視野に入れ、ICT領域からアプリケーション・サービス領域への展開・フィードバックに加え、シーズ志向からニーズ志向・ユーザ志向へとパラダイム転換を図っていく必要がある。





WSN利用促進協議会

(仮称)NICT ビッグデータ 利用促進協議会

NICT 連携・協力側面

WSN 利用促進協議会

WiSUN 利用促進・ビジネス展開側面



YRP協会は、NICT政策の下でYRPのマルチベンダ、マルチキャリア環境を活用し、WSN利用促進協議会を設置し、Wi-SUN利用促進、YRPのM2M拠点化活動に貢献

- ・NICTテストベッドの利活用推進⇒(オープンテストベッド)
- ・Wi-SUN/コグニティブルータ応用領域の拡大及びサービス・サービスアプリ開発推進⇒(業務アプリケーションプロファイル認証の仕組み⇒テクニカルセンター、Wi-SUN人材育成)
- ・アプリ搭載システム統合試験、サービスの検証環境構築
- ・各種センサーの開発に伴う接続支援、既存センサーの活用推進
- ・NICT技術移転、事業化移転環境構築、必要な情報提供環境⇒(中小事業者でも利用可能サービス)
- ・国内外商談の場提供

WSN協議会活動の方向性

WSN協議会は、Wi-SUN利用促進に当たって必要な共通プラットフォームの整備を推進する。



WSN会員・専門企業による 水平分業

業務アプリケーションサイドからのWi-SUN活用促進
マルチキャリア・マルチベンダWi-SUN活用促進環境
地方の課題を知るICT企業との連携・活躍支援
中小事業者でも利用可能なM2M

Wi-SUN利用促進の水平分業活動動向について

WSN利用促進協議会の提言を受けて、次のような会員企業連携活動が始まっている。

- ・業務アプリプロファイル認証について20者+検討中複数
- ・オープンテストベッド事業者認定について4者
- ・技術者教育機関認定、技術者認定について2者が、連携し、(仮)一般社団法人M2Mアプリケーションテクニカルセンター機能検討活動を開始している。

中小事業者でも利用可能なM2Mサービス提供を5者が連携して検討を開始している。

WSN協議会に海外のIoT機関との連携希望が数社からあり、事務局で対応検討中

提言

2014年設立 会員数約70社/団体

WSN利用促進協議会

スマートユーティリティネットワーク技術の利用促進
モバイルワイヤレステストベッド利用促進



- ・アプリケーション部会
- ・テストベッド利用促進部会
- ・拠点化部会

設立

1997年設立 会員数約170社/団体

YRP研究開発推進協会

モバイル研究開発拠点形成のため、会員が共同して行う事業推進



- ・ワンセグ制度化
- ・ブロードバンドワイヤレスフォーラム
(ワイヤレス電力伝送制度化)

「Wi-SUN利用推進母体」の設立検討について

水平分業連携によるオープン、かつ、ビジネスオリエンテッドなWi-SUN利用推進母体
(仮称)WSNアプリケーションテクニカルセンター(WSN-Atec)の設立を検討

一般社団法人化の
議論

WSN利用促進
協議会

運営委員会

テストベッド
利用促進部会

アプリケーション
部会

拠点化部会

提言

(仮称)
WSNアプリケーションテクニカルセンター

業務アプリ
プロファイル

WG設置予定
・アプリプロファイル策定
・グローバル連携
・IoTアプリストア検討
・アプリサービス
ビジネススキーム策定

技術者育成

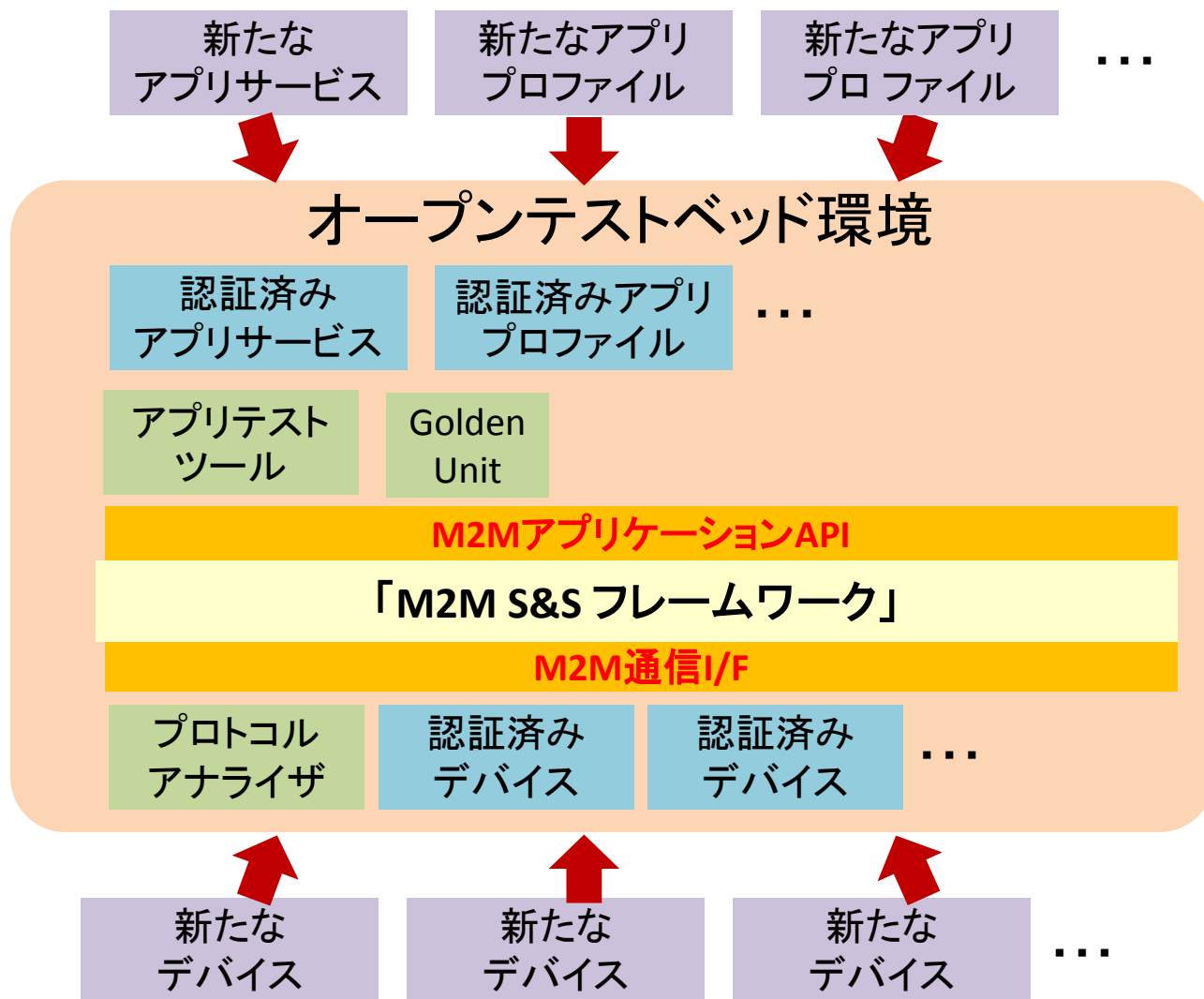
WG設置予定
・技術者育成プログラム
・技術者認定プログラム
・産学&グローバル連携

WSNオープン
テストベッド

WG設置予定
・テスト仕様策定
・テストベッド認定
・認証取得支援
・人材育成利用
・グローバル連携

オープンテストベッド環境の構築

Wi-SUNセンサーネットワークを中心とした
新たなアプリサービス、アプリプロファイル、センサーデバイスなどの 動作検証が可能



- ・Wi-SUN Alliance認証サポート
- ・業務アプリ開発
- ・業務アプリプロファイル認証
- ・Wi-SUN技術者育成
- ・各種測定環境

オープンテストベッド環境例 (開発・認証・教育用)

YRP オープンテストベッド環境を中心に拠点化展開も推進

大学などと連携

新サービス用アプリ

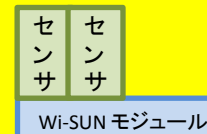
PC、スマホ、タブレット



新サービス用センサー

Additional node

・ユーザー持込みのセンサー



メッシュ型 Wi-SUN ネットワーク環境

・新たなアプリサービス検証環境

YRP オープンテストベッド
(横須賀リサーチパーク内)

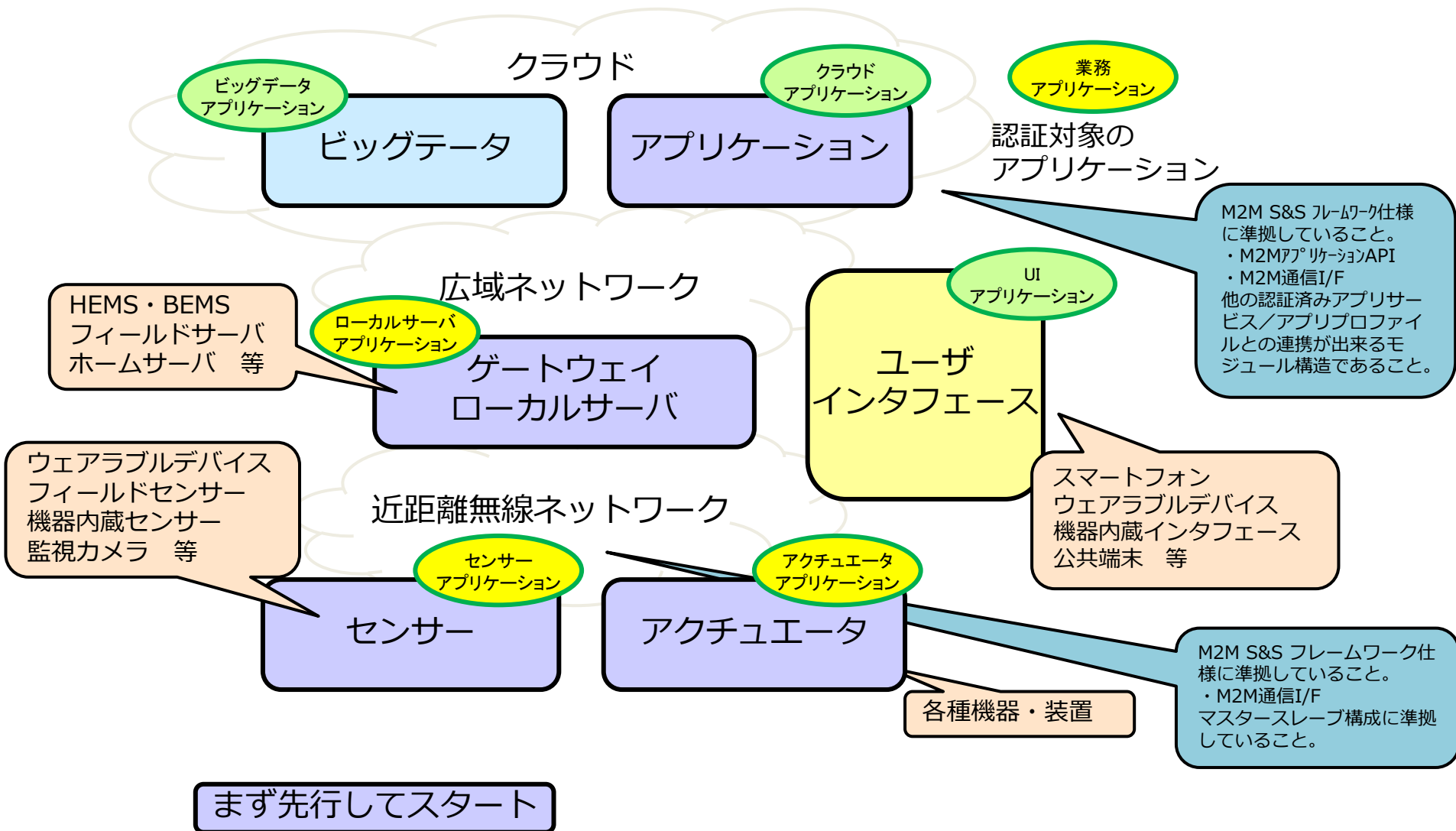
Wi-SUN 沖縄テストベッド
(沖縄IT津梁パーク内)



・沖縄モバイル検証基盤と連携した
相互接続性検証環境

WSN業務 アプリケーションプロファイル 認証の構築

WSN推進協議会提言を指針として具体的アプリ認証プログラムを策定



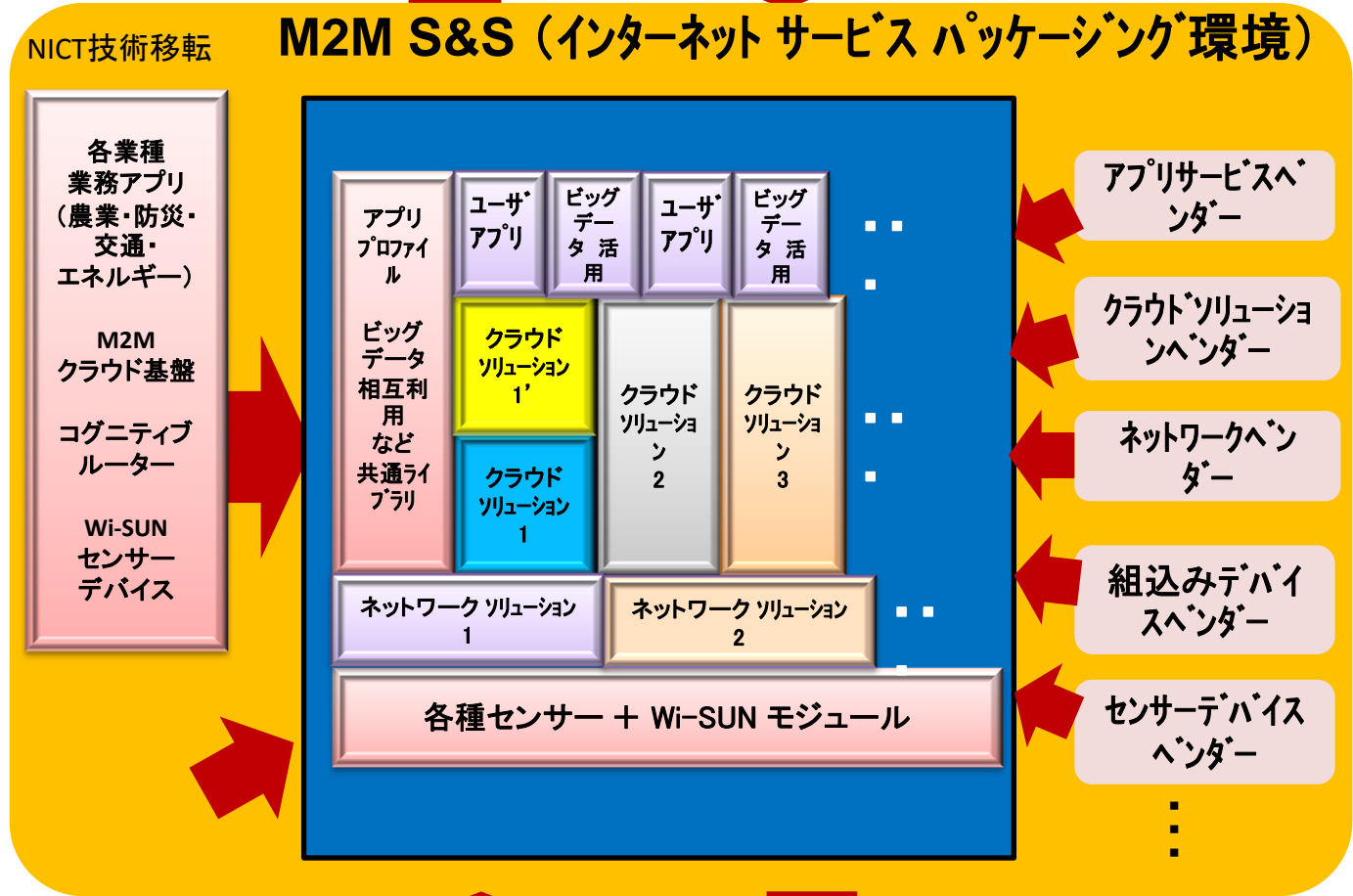
アプリプロフィール 認証検討方向(IPAガイドライン準拠)

WSN 業務アプリケーションプロフィール 認証

目的	アプリケーション、アプリプロフィール、センサーデバイスなどがIoTシステムのコンポーネントとして備えるべき基本要件を満たしていることを第三者が評価し、評価結果をIoTサービス利用者に提供するための認証制度。
認証対象	<ul style="list-style-type: none">・アプリケーション・アプリケーションプロフィール・各種ツール・組み込みデバイス・Wi-SUNを中心とするセンサーデバイス
基本要件	<p>IoTシステムコンポーネントとして活用できること。</p> <ul style="list-style-type: none">・オープンな I/F が開示されていること(M2M S&S フレームワーク I/F 仕様)。・モジュールとしての品質が適切に検証されていること。・モジュールとしての品質が適切に表示／開示されていること。 <p>社会が要請する一定の品質を備えていること。</p> <ul style="list-style-type: none">・機能安全規格、セキュリティ規格などへの対応・トレーサビリティ(著作権、特許など)が確保されていること。・障害・事故解析用のログデータが保存されていること。・条約・法令などに抵触していないこと。
認証方式	<p>技術要件</p> <ul style="list-style-type: none">・「M2M S&S フレームワーク」I/F 仕様に準拠。・ソースコードを審査するのではなく、論証を審査する方式

専門ベンダーの水平分業による全国版ワンストップM2Mネットサービス

WSN協議会会員企業、Wi-SUNビジネスに取り組む地方企業、金融・損保機関等との連携・支援



各種専門ベンダー
各地方のICT企業随時連携

地方の課題を知るICT企業に対する活躍支援 ⇒ ユーザー



ありがとうございました。

WSN利用促進協議会事務局
半田 祐一